

静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター + 大阪大学グローバルコラボレーション・センター共催  
一般公開シンポジウム in SHIZUOKA

CEGLOS + GLOCOL OPEN JOINT SYMPOSIUM

世界各地の食事情に学ぶ  
フード・セキュリティの未来



Bhutan

Vietnam

Russia

Indonesia

Kenya

France

Alaska

日時：2008年12月6日 会場：静岡県立大学小講堂



CEGLOS + GLOCOL OPEN JOINT SYMPOSIUM

# 世界各国の食事情に学ぶ

## フード・セキュリティの未来

静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター + 大阪大学グローバルコラボレーション・センター共催  
一般公開シンポジウム in SHIZUOKA

グローバリゼーションによって南北間の貧富の差が拡大した現在の世界において、「フード・セキュリティ（食糧の確保）」は人類共通の重要な課題といえます。

フード・セキュリティが問題化される時は、国家レベルでの食糧安全保障に注目が集まり、世界各地の民衆が創り上げてきたフード・セキュリティに関する議論は、忘れられてしまいがちです。そこで、わたしたちは、「人間の安全保障」の考え方にしたがって、食糧についても、国家のセキュリティから人々のセキュリティに視点を移すことを試みます。

この一般公開シンポジウムは、静岡県立大学CEGLOSと大阪大学GLOCOLの2つの研究センターを中心として、開発学、人類学、国際法学、地域研究などの様々な分野の研究者が学際的に組織するものです。アメリカ（アラスカ）、カナダ、ブータン、ベトナム、インドネシア、ロシア、フランス、ケニアなどの世界各地で暮らすごく普通の人々が、それぞれの地域社会のなかでどのようにフード・セキュリティを維持しようとしているのかということについて、最新の現地調査の成果に基づいて紹介します。そして、こうした草の根レベルの民衆知から学び、それらを比較することによって、世界各地の地域社会の食事情に根ざしたフード・セキュリティの未来を展望します。

当日は、大阪大学GLOCOL・国立民族学博物館から総勢6名の研究者が来静し、海外調査に基づく最先端の研究に触れることができます。グローバリゼーション、セーフティ・ネット、フード・セキュリティ、貧困と飢餓、食文化、人間の安全保障、国際開発などに関心をお持ちの方のご来場を心よりお待ちしております。



### —パネリスト—

**上田晶子（大阪大学）** トウガラシ消費大国ブータンの食事情—トウガラシの入手と消費

**住村欣範（大阪大学）** 家の木、庭の葉—ベトナム農村の家庭における葉と食

**ス・チンプ（大阪大学）** ロシア人の生きる戦略—経済移行期におけるダーチャの役割

**阿良田麻里子（国立民族学博物館）** 灯油かガスか、薪のかまどか—インドネシアの燃料事情

**湖中真哉（静岡県立大学）** ケニア国内避難民の救援食糧と地域セーフティ・ネット

**中川理（大阪大学）** フランス・プロヴァンス地方の農と食—危機と新しい動き

**岸上伸啓（国立民族学博物館）** アラスカ先住民族社会における地球温暖化や国際規制における食糧問題

### —ディスカッサント・座長—

玉置泰明（静岡県立大学）

伊藤一頼（静岡県立大学）

比留間洋一（静岡県立大学）



日時：2008年12月6日（土） 13:00～18:00

会場：静岡県立大学小講堂

入場無料・聴講自由・事前予約不要（先着200名様まで着席可能）

お問い合わせ先

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1 静岡県立大学国際関係学部 湖中真哉

E-MAIL: maaculture@gmail.com